

鹿児島大学水産学部「鹿児島水産学」講義

平成29年12月28日 水産技術開発センター

鹿児島大学水産学部からの要請を受け、同学部2～3年生を対象とした授業「鹿児島水産学」の一コマを当センターの宍道研究専門員が受け持つこととなり、12月20日に『奄美海域産スジアラの資源管理に向けた基礎生態研究』と題して講義を行いました。

スジアラは西太平洋から東インド洋の熱帯～亜熱帯域に棲息すること、奄美海域において極めて重要な水産資源であること、近年漁獲量が減少傾向で資源の減少が懸念されていることなど研究の背景を紹介し、資源管理に向けて実施している漁獲実態調査、成長・成熟等の基礎生態調査、粒子追跡実験（鹿児島大学工学部海洋土木工学科と共同で実施）等について概要を紹介しました。

粒子追跡実験は、奄美で産まれた卵仔魚がどの程度奄美に留まるかを推定することが目的で、産卵魚の保護がどの程度有効かを検討する上で参考となります。

学生さん達は、スジアラの資源管理の重要性や、研究を進めることの大変さについて理解できたとの感想文をくださいました。

